

長門市立日置小学校の児童がシイタケの種駒打ち作業を体験！

令和4年2月25日（金）、長門市立日置小学校において、3年生児童21名がシイタケの種駒打ち作業を体験しました。

これは、次世代を担う子供たちに、ふるさとの森林の大切さやそれを支える林業の役割について、興味、関心をもってもらうために、「千畳里山の会」（会長：長富隆士）が行ったものです。

当日は、会長によるあいさつの後、5班に分かれて会員の指導により、クヌギの原木約30本に各自、電気ドリルを使って穴をあけ、木槌で種駒を打ち込み、校舎裏に仮伏せを行いました。

クヌギの原木は、会員が森林体験学習のために、昨年11月に伐採し、2月初めに玉切りを行い準備したものです。

児童たちは、ほとんどが初体験で、初めて使う道具に戸惑いながらも熱心に作業をしていました。

また、シイタケの種駒から菌糸を取り出し顕微鏡で観察も行いました。

日置小学校では、毎年シイタケの駒打ち体験を実施し、校舎裏に伏せ込み場があり、春と秋にはシイタケの収穫体験もできます。

千畳里山の会では、今後もこのような森林体験学習を継続し、子供たちの森林に対する意識を高めていくこととしています。



ドリルでの穴開け初体験



椎茸菌を顕微鏡で観察